

# 第 1 章 一般商品売買取引

## 第 1 節 一般商品売買取引の意義と記帳方法

### 1. 意義

一般商品売買取引とは、特別の条件のない商品の仕入取引と販売取引である。ここにいう商品とは、商業を営む会社が販売の目的をもって所有する物品であって、当該企業の営業主目的に係るものである。

### 2. 記帳方法

	種 類	売 上 高 の 算 定 場 所	売 上 原 価 の 算 定 場 所	販売益の算定場所	
				総額法 (注1)	純 額 法 (注2)
商品勘定を分割しないで処理する方法	分記法 商 品 原価   原価	—	—	—	商 品 販 売 益 a/c
	総記法 商 品 原価   売価		—	—	
	小売棚卸法 商 品 売価   売価		—	—	
商品勘定を分割して処理する方法	二分法 (注3)	売 上 a/c	仕 入 a/c	損 益 a/c	売 上 a/c (注7)
	三分法 (広義) 三分法 (狭義)	売 上	仕 入 a/c 又は 売上原価 a/c	損 益	売 上
	五分法 (注4)		又は		
	七分法 (注5)		損 益 a/c	a/c	a/c (注7)
	九分法 (注6)	a/c	損 益 a/c	a/c	a/c (注7)

(注1) 総額法… 商品販売高と商品販売原価とを両建てで損益勘定に振替える方法。

(注2) 純額法… 商品販売高と商品販売原価との差額である販売益のみを損益勘定に振替える方法。

(注3) 二分法… 商品勘定を仕入勘定と売上勘定の二勘定に分割して一般商品売買取引を記帳する方法。

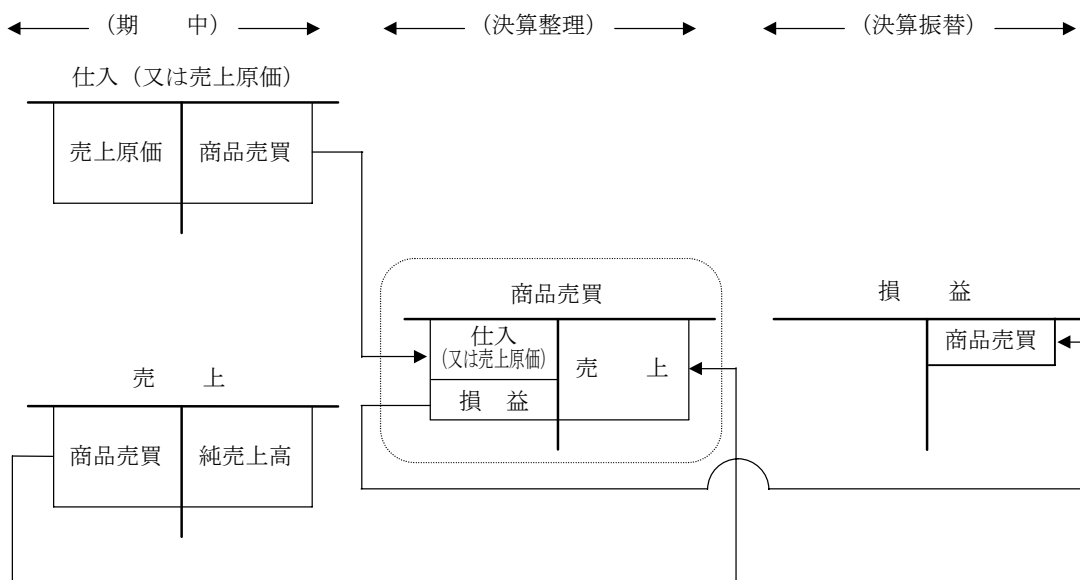
(注4) 五分法… 商品勘定を繰越商品勘定、仕入勘定、売上勘定、仕入値引・戻し勘定、売上値引・戻り勘定の五勘定に分割して一般商品売買取引を記帳する方法。

(注5) 七分法… 商品勘定を繰越商品勘定、仕入勘定、売上勘定、仕入値引勘定、仕入戻し勘定、売上値引勘定、売上戻り勘定の七勘定に分割して一般商品売買取引を記帳する方法。

(注6) 九分法… 商品勘定を繰越商品勘定、仕入勘定、売上勘定、仕入値引勘定、仕入戻し勘定、仕入割戻し勘定、売上値引勘定、売上戻り勘定、売上割戻し勘定の九勘定に分割して一般商品売買取引を記帳する方法。

(注7) 純額法による販売益の算定場所として商品売買勘定を設定することもある。

< 勘定連絡図 >



## 第2節 分記法

### 1. 意義

分記法とは、一般商品売買の取引を商品勘定と商品販売益勘定に記録し、販売の都度、商品販売益を算出する記帳方法である。

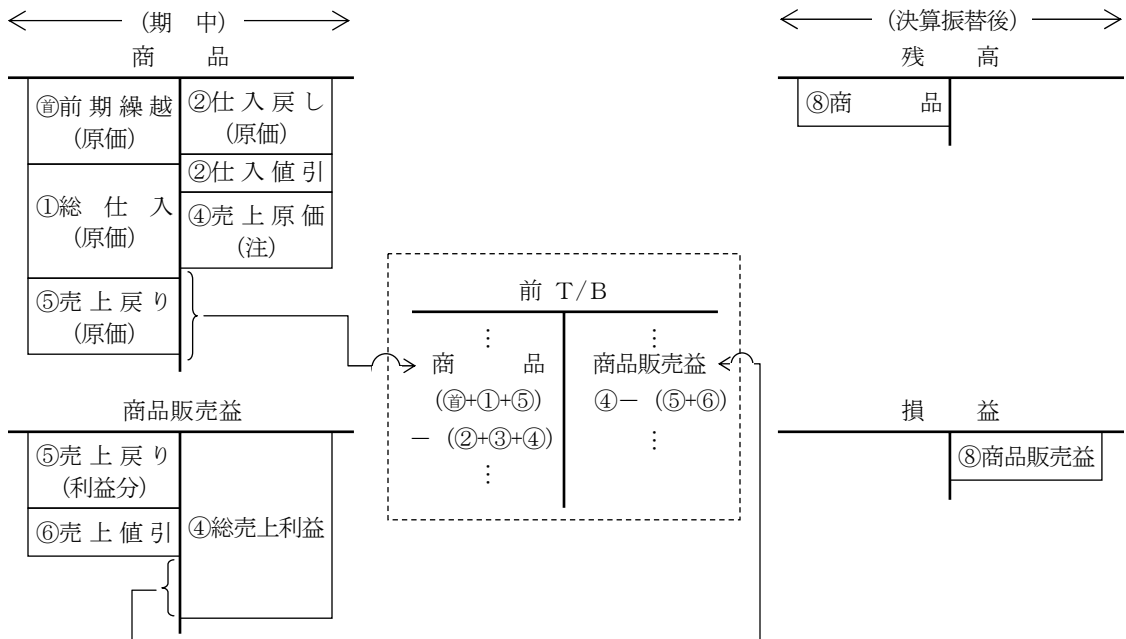
### 2. 特徴

- ① 商品仕入時に商品勘定の借方に仕入原価で記帳し、商品販売時に商品勘定の貸方に販売に見合う仕入原価（販売原価）を記帳するとともに商品販売益勘定の貸方に実現利益（販売売価と販売原価の差額）を記帳する。
- ② 商品勘定は常に借方残となって商品の現在有高（原価）を示し、純粋に資産勘定としての性質を有する。
- ③ 販売の都度、商品販売益が算出されるため決算整理仕訳は不要となる。
- ④ この記帳方法は商品有高帳を用いた継続記録法の採用を前提としている。

### 3. 会計処理

取引形態	仕 訳	留 意 点
期 中	①仕 入 (借) 商 品×× (貸) 買 掛 金××	掛による場合。
	②仕入戻し (借) 買 掛 金×× (貸) 商 品××	仕入時に原価で記帳しているため、その反対仕訳を原価で行う。
	③仕入値引 (借) 買 掛 金×× (貸) 商 品××	仕入時に利益を付加しないで記帳しているため、その反対仕訳を値引額（原価部分）だけ行う。
	④売 上 (借) 売 掛 金×× (貸) 商 品×× 商品販売益××	掛による場合。
	⑤売上戻り (借) 商 品×× (貸) 売 掛 金×× 商品販売益××	売上時に商品勘定及び商品販売益勘定の貸方に記帳しているため、その反対仕訳を行う。
	⑥売上値引 (借) 商品販売益×× (貸) 売 掛 金××	売上時に販売益を商品販売益勘定の貸方に記帳しているため、値引額（利益部分）だけ商品販売益勘定を減額する。
決 算	⑦整 理 —	販売の都度、商品販売益が算出されるため決算整理仕訳は不要となる。
	⑧振 替 (借) 商品販売益×× (貸) 損 益××	商品販売益勘定の残高を損益勘定に振替える。
	(借) 残 高×× (貸) 商 品××	商品勘定の残高を残高勘定に振替える。

<勘定連絡図> (前頁の取引番号と対応している。)



(注) 売上戻り考慮前の金額であり最終的な売上原価ではない。

point up lesson 1

解答用紙は P. 178

次の資料にもとづき勘定連絡図を書きなさい。

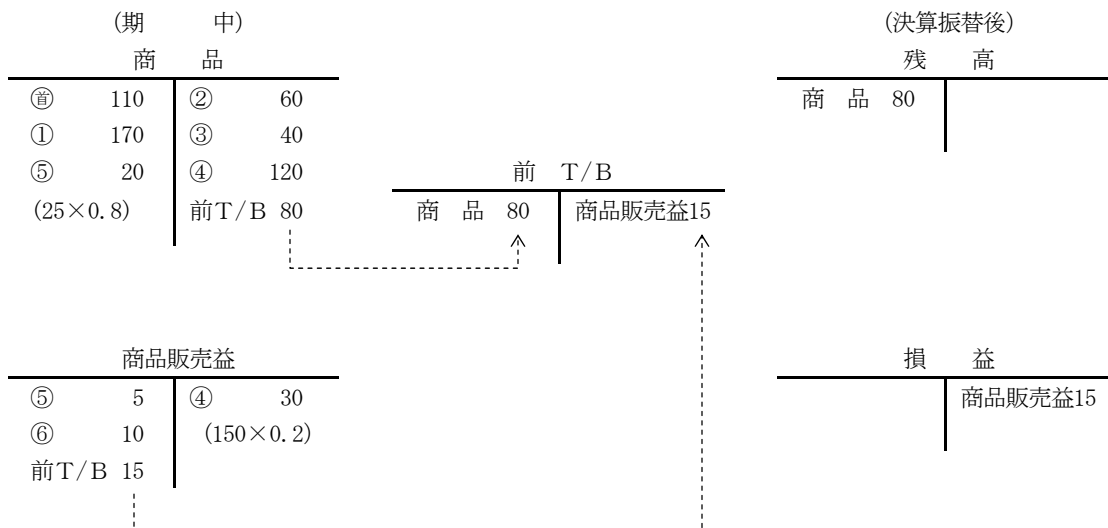
期首商品棚卸高: 110

①総仕入高: 170, ②仕入戻し高: 60, ③仕入値引高: 40

④総売上高: 150, ⑤売上戻り高: 25, ⑥売上値引: 10

期末商品棚卸高: 80 (戻り商品を含む)

なお、売上利益率は20%である。



## 第3節 総記法

### 1. 意義

総記法とは、一般商品売買の取引を商品勘定に記録し、決算時に商品販売益勘定を設定して一括して直接商品販売益を算出する記帳方法である。

### 2. 特徴

- ① 商品仕入時に商品勘定の借方に仕入原価で記帳し、商品販売時に商品勘定の貸方に販売売価で記帳する。
- ② 商品勘定は混合勘定としての性質を有する。
- ③ 期中では商品販売益が算出されず、決算整理仕訳を行うことにより初めてその商品販売益が算出される。

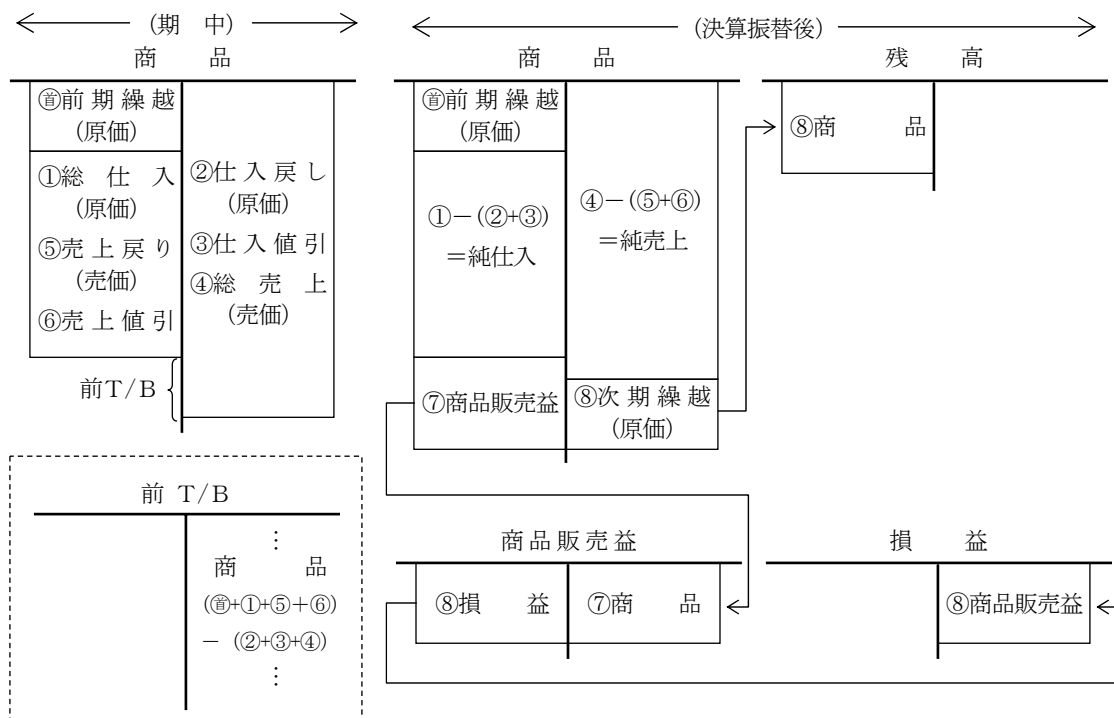
### 3. 会計処理

取引形態	仕 訳	留 意 点
期     中	①仕入 (借)商品×× (貸)買掛金××	掛による場合。
	②仕入戻し (借)買掛金×× (貸)商品××	仕入時に原価で記帳しているため、その反対仕訳を原価で行う。
	③仕入値引 (借)買掛金×× (貸)商品××	仕入時に利益を付加しないで記帳しているため、その反対仕訳を値引額(原価部分)だけで行う。
	④売上 (借)売掛金×× (貸)商品××	掛による場合。
	⑤売上戻り (借)商品×× (貸)売掛金××	売上時に売価で記帳しているため、その反対仕訳を売価で行う。
	⑥売上値引 (借)商品×× (貸)売掛金××	売上時に利益を付加して記帳しているため、その反対仕訳を値引額(利益部分)だけ行う。
決  算	⑦整理 (借)商品×× (貸)商品販売益××	売上純利益を商品販売益勘定に振替える。
	⑧振替 (借)商品販売益×× (貸)損益×× (借)残高×× (貸)商品××	商品販売益勘定の残高を損益勘定に振替える。 商品勘定の残高を残高勘定に振替える。

(コメント)

商品販売益は、決算時に、次期繰越高(原価)を貸方に加算した後の商品勘定の貸借差額により算出される。

<勘定連絡図> (前頁の取引番号と対応している。)



point up lesson 2

解答用紙は P. 178

次の資料にもとづき勘定連絡図を書きなさい。

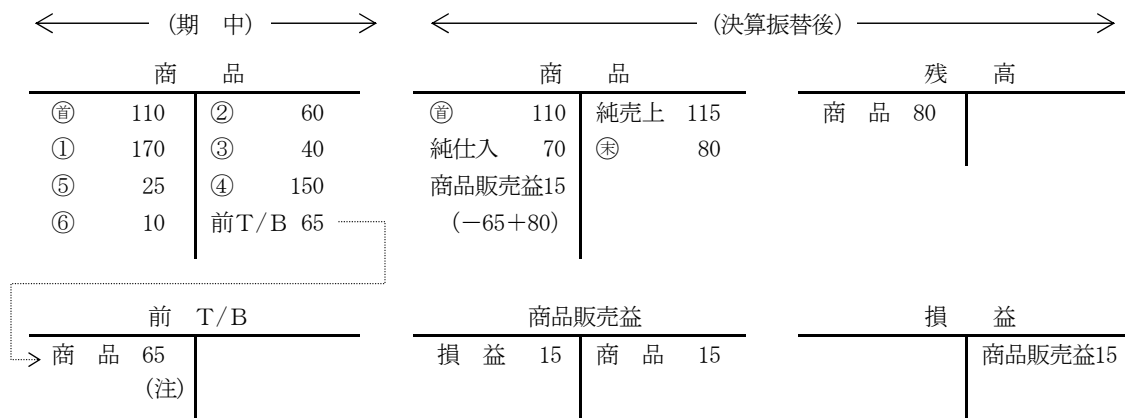
期首商品棚卸高: 110

①総仕入高: 170, ②仕入戻し高: 60, ③仕入値引高: 40

④総売上高: 150, ⑤売上戻り高: 25, ⑥売上値引高: 10

期末商品棚卸高: 80 (戻り商品を含む)

なお、売上利益率は20%である。



(注) 通常は上記<勘定連絡図>のように商品勘定は貸方残高となるが、本設例では借方残高になっていることに注意すること。

## 第4節 小売棚卸法

### 1. 意義

一般商品売買の取引を商品勘定と商品販売益勘定に記録し、決算時に未実現の利益を控除することによって当期実現した商品販売益を算出する記帳方法である。

### 2. 特徴

- ① 商品仕入時に商品勘定の借方に仕入原価に見合う売価を記帳するとともに商品販売益勘定の貸方に未実現利益（仕入原価に見合う売価と仕入原価の差額）を記帳し、商品販売時に商品勘定の貸方に販売売価で記帳する。
- ② 商品勘定は常に借方残となって商品の現在有高（売価）を示す。
- ③ 期中に計上された商品販売益は決算整理仕訳を行うことにより初めて実現利益として確定する。

### 3. 売価還元法との関係

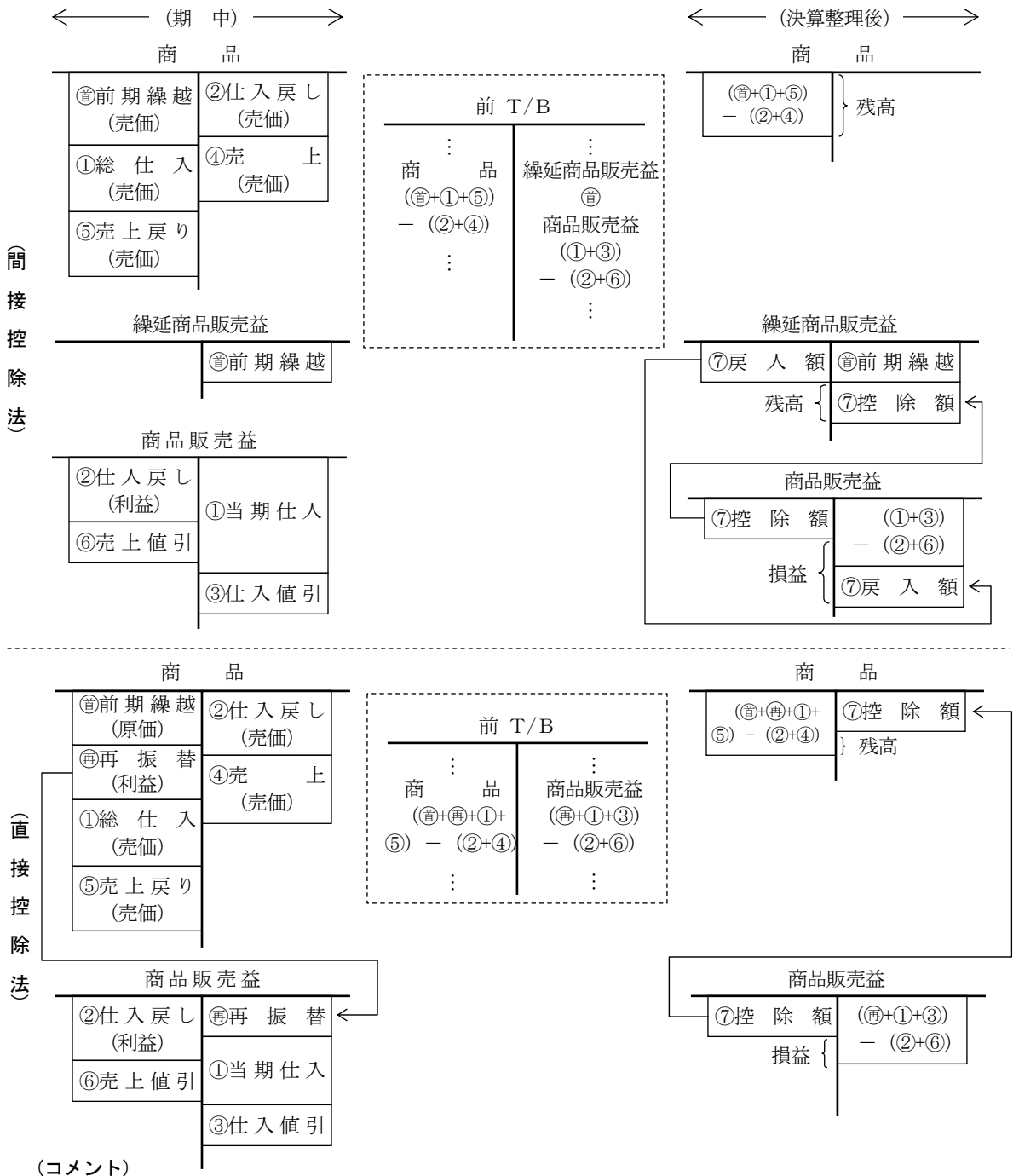
- ① 小売棚卸法は一般商品売買取引の記帳方法であるのに対し、売価還元法は期末商品の評価方法である。
- ② 小売棚卸法における期末商品の評価方法として売価還元法を利用することがある。

### 4. 会計処理

取引形態	仕 訳	留 意 点	
再 振 替	—	i) 間接控除法（注1）においては、通常戻入れ処理は行わない。 ii) 直接控除法（注2）においては次の仕訳を行う。 (借) 商 品 × × (貸) 商品販売益 × ×	
期 中  (注3)	①仕 入	(借) 商 品 × × (貸) 買 掛 金 × × 商品販売益 × ×	商品勘定の借方に仕入原価に未実現の商品販売益を加算した額を記帳する。
	②仕入戻し	(借) 買 掛 金 × × (貸) 商 品 × × 商品販売益 × ×	仕入取引の反対取引であるため、仕入時の反対仕訳を行う。
	③仕入値引	(借) 買 掛 金 × × (貸) 商品販売益 × ×	売価が一定である限り仕入値引は利益の増加を意味するので商品販売益勘定の貸方に記帳される。
	④売 上	(借) 売 掛 金 × × (貸) 商 品 × ×	仕入時にすでに商品販売益を計上しているため仕訳上利益の認識はされない。
	⑤売上戻り	(借) 商 品 × × (貸) 売 掛 金 × ×	売上取引の反対取引であるため、売上時の反対仕訳を行う。
	⑥売上値引	(借) 商品販売益 × × (貸) 売 掛 金 × ×	売上値引は仕入時に計上した利益の一部を取消すことを意味するので商品販売益勘定の借方に記帳される。



<勘定連絡図> (前頁の取引番号と対応している。)



小売棚卸法によった場合、決算整理前残高試算表における商品販売益勘定には、直接・間接のどちらによろうと上記のように未実現利益が含まれている。これに対して、分記法によった場合の商品販売益勘定は、実現利益のみである。よって、分記法において決算整理は不要であるが小売棚卸法では必要となるのである。

point up lesson 3

解答用紙はP. 179

次の資料にもとづき勘定連絡図を書きなさい。

	原価	売価		売価
期首商品棚卸高	110	116	④総売上高	150
①総仕入高	160	182	⑤売上戻り高	25
②仕入戻し高	60	73	⑥売上値引高	10
③仕入値引高	30	—		
期末商品棚卸高	80	100		

(間接控除法)

← (期中) →

商品	
④ 116	② 73
① 182	④ 150
⑤ 25	前T/B 100

繰延商品販売益	
前T/B 6	④ 6

前T/B	
商品 100	繰延商品販売益 6
	商品販売益 29

商品販売益	
② 13	① 22
⑥ 10	③ 30
前T/B 29	

← (決算処理後) →

商品	
前T/B 100	残高 100

繰延商品販売益	
戻入 6	前T/B 6
残高 20	控除 20

商品販売益	
控除 20	前T/B 29
損益 15	戻入 6

(直接控除法)

商品	
④ 110	② 73
⑥ 6	④ 150
① 182	前T/B 100
⑤ 25	

前T/B	
商品 100	商品販売益 35

商品販売益	
② 13	⑥ 6
⑥ 10	① 22
前T/B 35	③ 30

商品	
前T/B 100	商品販売益 20
	残高 80

商品販売益	
商品 20	前T/B 35
損益 15	